

社会的責任経営委員会 提言概要

グローバル時代のCSR 変化する社会の期待に応え、競争力を高める

1. 現状認識 (p2)

(1). 企業経営を取り巻く環境変化(p2)

- ・グローバル化の進展と新興国の台頭、情報技術革新による個人の情報発信力の増大など、世界の経済・社会の構造は著しく変化し、時代は大きな転換点にある。国内においても、急速に進む少子・高齢化と人口減少や国内経済の成熟化により、日本企業を取り巻く環境は大きく変化している。
- ・しかしながら、こうした環境変化への対応は遅々として進まず、企業の社会的責任(CSR)においても、グローバル化への対応は欧米企業と比して遅れていることは否めない。

(2). 欧州・米国・中国におけるCSR動向 (p4)

- ・欧州のCSRは、社会的結束等を目指すEUの成長戦略と一体である点が特徴的。
- ・米国のCSRは、ビジネス戦略として推進されている点が特徴的。
- ・中国のCSRは、近代化・格差是正のための国家戦略である点が特徴的。

2. 日本企業が目指すべきグローバル時代のCSR (p6)

(1). 経営の中核としてのCSR (p6)

- ・日本企業がグローバル競争力を強化するためには、企業変革が不可欠であり、その鍵は、高付加価値経営と高効率経営への転換である。
- ・高付加価値経営の実現のため、CSRを経営の中核に位置付け、「攻めのCSR」を推進することが重要となる。また、高効率経営の推進にあたっては、行き過ぎた利益追求により労働条件・環境などの社会性が犠牲にならないよう、CSRの視点が重要となる。

(2). グローバル時代の社会的責任 20世紀型価値観からの脱却 (p9)

- ・グローバル時代にふさわしい社会的責任を果たすためには、物質的経済成長から環境・社会の持続可能性へと、価値観のパラダイムシフトが起きていることを認識する必要がある。もはやビジネスは社会性を犠牲にすることで利益を生む存在であってはならない。企業は、本業を通じて持続可能な社会の実現に貢献し、社会と共生することに企業の存在価値を見い出していかねばならない。

【グローバル時代のCSRの本質】

CSRは、時代とともに変化する社会の動きを察知して、社会的課題を見い出し、経営の優先順位をつけて課題解決を進めるものである。CSRは、グローバル時代の経営者・社員が備えておくべき必須の見識である。

CSRは経営の中核であり、企業と社会の持続的な相乗発展に資する。CSRは、社会の持続可能な発展とともに、企業の持続的な価値創造や競争力向上にも結び付く。その意味で、企業活動の経済的側面と社会・人間的側面は「主」と「従」の関係ではなく、両者は一体のものとして考えられる。

CSRは、経営トップが明確なコミットメントを行い、経営者・社員一人一人が社会を担う自覚と責任を持ち、実行に移すことで実現する。そして企業は、社会の多様な価値観を取り込み、ダイバーシティの力を発揮して社会の期待やニーズに応えることで、競争力を強化する。

3. 経営者のリーダーシップとアクション【3つの宣言】(p11)

グローバル時代のCSRの実現に向けて、経営者は以下3つのアクションを宣言する。

経営者はこの宣言に照らし、自社の強みと弱みを認識した上で、経営戦略にあわせて優先順位をつけ、実行することが重要である。各企業の創意工夫により社会的責任経営に取り組むことこそが、日本企業のCSRを、より高い次元に進化させる。本宣言の決断と実行にあたっては、経営者自身の強力なリーダーシップが大切である。

宣言1. CSRを中核とした高付加価値経営・高効率経営・人材育成を推進する (p11)

- ・社会のニーズを取り込み、新たなビジネスモデルを創出する
- ・社会との調和を重視した高効率経営を推進する
- ・人材育成：多様な個人の力を束ねる資質を持ったグローバル・リーダーを育成する
- ・ビジネスモデル創出の担い手となるイノベーション人材を育成する

宣言2. 本業を通じたCSRを実践する (p12)

- ・自社の経営資源や強みが活かせる社会的課題を特定する
- ・ステークホルダーとの対話を通じたCSRを実践する
- ・情報開示を促進し、透明性の高い経営を行う
- ・社会の期待と自社のCSRのギャップを認識する
- ・CSRを企業経営の中核とし、PDCAを定着させる

宣言3. 市民や市民社会との連携によりCSR活動を推進する (p14)

- ・企業は、広く市民を巻き込んで、CSR活動に取り組む
- ・企業は、社会を担うNPO・社会起業家の役割を理解し、支援する
- ・経営者は、社員の市民社会への参加を促し、社会のために働く意識向上を図る

おわりに グローバル時代の個人の社会的責任 (p15)

個人のガバナンスとパブリックマインド (p15)

- ・どのような組織であろうと人間がその中核に存在する以上、個人のガバナンスの問題が常にその基本にある。
- ・CSRを具現化するのには個人であり、個人のパブリックマインドが大切である。

グローバル時代の個人の社会的責任 (p15)

- ・他種多様な社会的課題を政治・行政に責任転嫁せず、自らの課題として捉え、自分自身あるいは所属する企業を通じて課題解決に向けて行動を起こし、社会の発展のために貢献することが、グローバル時代の社会的責任のあり方。

時代にふさわしい経済社会を切り拓く (p15)

- ・経済同友会は、企業経営者が個人の資格で参加し、業界の利害関係を超えて、経済社会のあるべき姿を真剣に議論する団体である。それは、本会が設立当初より、個人が持つ志、社会的責任こそが、時代にふさわしい経済社会を切り拓く原動力であると信じたからに他ならない。
- ・我々は自立した個人として、未来世代に対する社会的責任を自覚し、個人の力を発揮・連携し、持続可能な社会の実現に向けて行動すべきである。そして、経営者・社員の「個人の社会的責任」が支えるCSRで経営の質を高め、競争力を強化し、グローバル時代の新しい日本の創生に貢献することを決意する。